

## 日興ワールド・カレンシー・ファンド2004-05

計算基準日

2018年05月31日

日興アセットマネジメント株式会社

page 1

※当レポートでは基準価額および分配金を1口当たりで表示しています。

※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

※グローバル・カレンシー・マザーファンドの運用の外部委託先は、2009/1/15に、メロン・キャピタル・マネジメント・コーポレーションから、日興アセットマネジメント アメリカズ・インクに変更されました。また、2017/6/9より、日興アセットマネジメント アメリカズ・インクから、P/E Global LLCに変更されておりま

## ファンドの基本情報

基準価額	6,880円	純資産総額	3.44億円
設定日	2004年5月31日	決算日	原則1月29日、7月29日
償還日	2019年5月29日		(休業日の場合は翌営業日)

「下方リスク」: 標準偏差がファンドの収益率の上下双方のぶれの大きさ(リスク)を示すのに対し、この指標は収益率が下方にぶれるリスクを示します。

「最大ドロウダウン」: 過去(各月末)のドロウダウンの最大値です。ドロウダウンは、各月末の基準価額における、過去の月末ベースの最高の基準価額からの下落率です。最悪のタイミングでファンドを購入していたと仮定した場合の最大の下落率を示します。

「シャープ・レシオ」: ファンドがとったリスクに見合ったリターンを得ているかを示す指標で、この値が大きいほど高い成果が得られたことを示します。

「最大ドロウダウン/年率平均リターン」: 最大ドロウダウンを平均的に何年で回復できるかを示します。

「勝率」: 設定来で月次リターンがプラスとなった月の割合です。

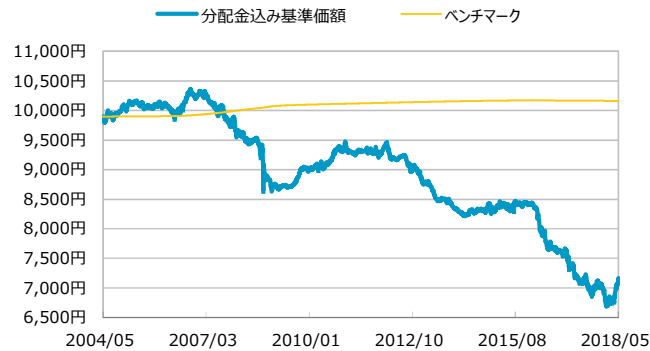
※基準価額は、信託報酬(年率1.16%)控除後の値です。

※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意ください。

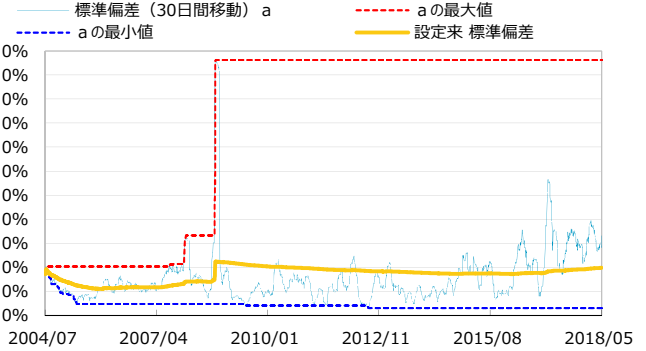
※右記の「パフォーマンス分析」は、分配金込み基準価額の月次リターンをベースに計算した理論上のものである点にご留意ください。

※下記の推移グラフおよび「分配金込み基準価額のパフォーマンス」は、分配金込み基準価額を使用した理論上のものである点にご留意ください。

## 分配金込み基準価額の推移



## 分配金込み基準価額における標準偏差の推移



## 分配金込み基準価額のパフォーマンス(騰落率)

期間別	ファンド	ベンチマーク
3か月	3.90%	-0.01%
6か月	1.07%	-0.02%
1年	-0.41%	-0.04%
3年	-15.64%	-0.07%
設定来	-28.27%	2.67%

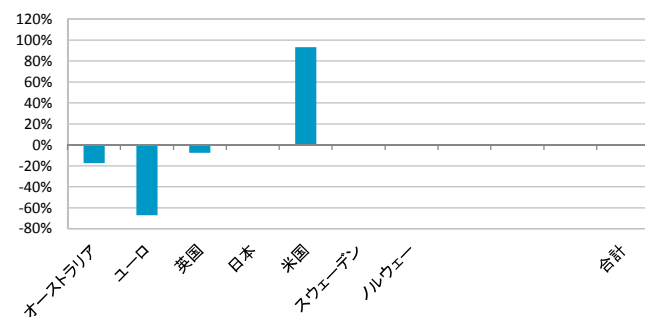
## 分配金実績(税引前)

2018/1/29	0円
2017/7/31	0円
2017/1/30	0円
2016/7/29	0円
2016/1/29	0円
設定来合計	315円

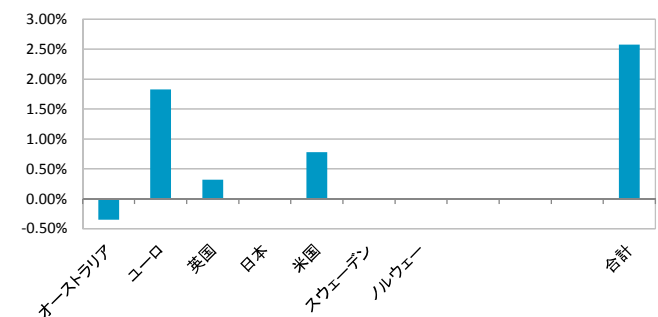
## 資産構成(マザーファンド)

資産	比率
資産	
コール・その他	100.0%
日本国債	0.0%
海外債券	0.0%
合計	100.0%

## エクスポージャー



## 損益寄与度(月次ベース)



マザーファンドの通貨のエクスポージャーを、マザーファンド純資産総額に対する比率で表しています。

マザーファンドの通貨からの損益寄与度(概算値)です。現物資産ポートフォリオの損益および一切のコストが考慮されていないことから、基準価額の推移と完全に一致するものではありません。また、当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当ファンド(マザーファンドを含みます)は、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合があるほか、為替予約取引なども積極的に活用しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。■当資料は、日興アセットマネジメントが当ファンドの運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

## 日興ワールド・カレンシー・ファンド2004-05

計算基準日

2018年05月31日

日興アセットマネジメント株式会社

page 2

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

### ＜当月のファンドのパフォーマンス＞

当月は、米ドルをロングし、日本円及び複数の欧州通貨をショートした結果、リターンはプラスとなりました。

現在のポジションの決定には、主に2つのファクターが寄与しています。一つ目は短期金利差で、1カ月利回りのより高い、二つ目はイールドカーブの長期部分で、傾きがより急な国の通貨を、それぞれ魅力度が高いと判断しています。この2つほど重要ではありませんが、資金フローで、投機家の保有率が高すぎない、あるいは投資家が集中しすぎていない通貨を魅力度が高いと評価します。

### ＜市況レビュー＞

世界景気は今のところまだ回復基調を保っていますが、今後の拡大を阻害しかねない3つの脅威が浮上しています。前に見たような光景ですが、今回はイタリアで金融政策の独立性を求める機運が高まっており、市場は再びユーロ崩壊の危機に直面しています。現在イタリアを率いているユーロ懐疑派のポピュリスト政党による連立が原因となり、対ドイツ国債のイタリア国債の利回り格差が大幅に拡大しました。新政権による短期的な影響は財政赤字の拡大に限定されると考えられるものの、国債スプレッドの拡大に伴う財政緊縮観測をきっかけに、欧州中央銀行(ECB)は金融政策の正常化プランを再考することが見込まれます。ECBの唯一の使命は物価安定ですが、総裁の地位にあるドラギ氏自身がイタリア人であるため、ECBはイタリアを取り巻くこうした状況には特に反応する公算が大きいとの憶測が一部で広がっています。米国ではトランプ政権が保護主義色の強い貿易政策を打ち出し、確立した慣習を脅かしています。強気な発言はするがほとんど行動に移さないというスタンスを1年以上続けてきたトランプ政権がついに関税の賦課に踏み切り、主要貿易相手国はすかさず対抗措置を講じて反発しています。さらに、第1四半期は世界経済がやや減速したことが次第に明らかになりました。欧州の悪天候が一部足かせになった可能性があります。暖かい季節になるまで消費者が支出を先送りしていたというのなら本来期待できるはずの改善が、第2四半期にこれまで発表された景気指標からは見てとれませんが、米国で財政出動が行われ他の国・地域で金融緩和策がとられているにもかかわらず経済成長がさえないことから、私たちがまだ十分認識していない他の成長阻害要因があるのかもしれないという懸念が浮上しています。

### ＜今後の投資戦略について＞

今後新しいデータやファクターの適合度、新しい分析ツールを採り入れる試みを続けながら、定量モデルに基づく運用を行なってまいります。

■当ファンド(マザーファンドを含みます)は、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合があるほか、為替予約取引なども積極的に活用しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。■当資料は、日興アセットマネジメントが当ファンドの運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。